

「かながわの土偶」

縄文時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本報告は、2019年9月15日（土）に当財団主催事業として行った令和元年度の特別研究講座「かながわの土偶」で使用した土偶出土遺跡地名表と文献一覧の再録である。今回土偶をテーマとしたのは、新東名高速道路関係の発掘調査で、秦野市菩提横手遺跡から出土した大形の中空土偶が注目されたことや、神奈川県内で縄文時代後期の遺跡の調査例が急増していることなどから選定した。この日の講座は、畠中俊明「川尻中村遺跡出土の中期の土偶」、山田仁和「菩提横手遺跡出土の中空土偶」、村松篤「県内の土偶」の3名が報告を行った。その後、文化庁の原田昌幸主任文化財調査官から特別講演「縄文世界の土偶造形とその展開」と題してご講演いただいた。最新の土偶研究の実例や、神奈川の土偶に関するコメントを交えながら、近年では国宝指定までなされた土偶研究の現状を詳細に解説いただいた。今回の特別研究講座の開催にあたり、これまでの発掘調査で出土した県内の土偶を報告書等から、ピックアップしてみた。従来、神奈川県は土偶の出土は少ない地域と認識されていたようであるが、個別に報告書を調べてみると発掘による発見例が思いのほか増加していることがわかった。結果的には、平成の初めになされた県内の土偶集成と比べ、3倍近い数量の土偶を見いだすことができた。特別研究講座では、土偶が記載された報告書を見ていただこうと、その報告書の一部を会場に展示してみたところ小山のようになった。このような大部の報告書群から土偶を見つけ出し、内容を調べて情報整理するだけでも相当の労力がいるように感じられた。そこで、今後土偶に親しもうとする方々や研究対象とする人々が手軽に報告書から必要な土偶の情報を抽出できるように、「かながわの土偶」のインデックスとして遺跡一覧表、文献一覧を作成した。本紀要には、当日配布資料を一部増補したものと、その中で出てきた「かながわの土偶」の特色を、令和元年度の縄文時代プロジェクトチームの報告として掲載することとした。

1. 「かながわの土偶」の特色

a. 出土土偶の動向

1992年集成（註1）では、48遺跡155点の集成だったのが、今回は94遺跡433点となっている（註2）。

- ・市町村別の出土数を見てみると、13市4町1村で発見されている。相模原市、横浜市が圧倒的に多数を占めていて、相模原では中期の土偶が主体を占める。また、横浜市は中期32個体、後期66個体と後期の土偶が主体を占める。

第1位	相模原市	162個体（17遺跡）
第2位	横浜市	102個体（30遺跡）
第3位	秦野市	50個体（10遺跡）
第4位	平塚市	37個体（5遺跡）
第5位	藤沢市	11個体（6遺跡）

- ・遺跡別に見ると、中期では20～40個体を出土する遺跡が多いことがわかる。一方後期になると一遺跡の

出土個体数は少ないが、横浜市、藤沢市、平塚市、秦野市を中心に遺跡数が多く分布する様子が見てとれる。

- | | | |
|-----|--------|-------------------------|
| 第1位 | 川尻中村遺跡 | 40個体（相模原市）中期の土偶 |
| 第2位 | 橋本遺跡 | 35個体（相模原市）中期の土偶 |
| 第3位 | 原口遺跡 | 28個体（平塚市）中期（23個体）と後期の土偶 |
| 第4位 | 上中丸遺跡 | 23個体（相模原市）中期の土偶 |
| 第5位 | 稲荷木遺跡 | 20個体（秦野市）後期の土偶 |

- ・時期別に見ると、中期の土偶が多く、後期の土偶が次ぐ。中期の土偶は、222個体を数え、後半の加曽利E期が主体を占める。後期の土偶は、179個体で、後期前半の堀之内期が主体を占める。晩期の土偶は、12個体である。小破片については、時期の特定が難しいものも多く、報告書内で記載がないものや時期を渡すものがあり、概数として記載した（註3）。

b. かながわで最も早く発見された土偶

横浜市三沢貝塚出土筒形土偶で、明治39年（1906年）2月15日に発見された。江見水蔭がイギリス人医師マンローにより発掘中の遺跡を見学した際に、地主に発掘費一坪1円を払って発掘を行った。そのとき江見水蔭は、筒形土偶の本体を掘り出し満足して帰っている。江見は発掘当初は、手足を略した「略式土偶」と呼んでいた（註4）。この発見の前には、文政13年（1830）に編纂された『新編武蔵風土記稿』の都筑郡の項に貝塚土偶が図入りで紹介されている。採集品でもあり、詳細は不明である（註5）。

c. かながわで最も古い土偶

折本町貝塚出土土偶が、前期諸磯式土器と共伴することから神奈川最古と言われてきた（註6）。ただし現在は中期土偶との意見が主体で、今回の原田主任文化財調査官も講演の中で同様の意見を述べていた。そこで、平塚市原口遺跡出土土偶が、五領ヶ台期と推定されており、神奈川最古となる。足部分だけの出土であるが、径8cm、現高6cmと大型品である。

d. 特殊な出土状態の土偶

住居跡出土の土偶は、90個体程であるが、住居覆土からの出土がほとんどである。相模原市新戸遺跡のJ9号敷石住居、炉から約1.4m北からは頭部と脚部を欠く土偶が平石の下に幾分隠れるように出土した例程度で、埋納等特殊例は見られない。

e. かながわで最も大きな土偶

土偶は、多くは破片で出土する。そのため全体の大きさがわかる土偶は少ない。部位別にみると、横浜市公田ジョウロ塚遺跡出土の頭部は現存で17cmの高さがあり、土偶とすると相当な大きさに復元できる（註7）。ただし、人面把手と見られる見解もあり評価が定まっていない。今回の講演の中で原田主任文化財調査官が実物を観察した所見としては、土偶の可能性が高いとコメントされていた。秦野市大岳院遺跡のみみづく土偶は、頭部の大きさから見て高さは20～27cmと推定され、みみづく土偶としては大形である。また、足だけの土偶なら平塚市原口遺跡（径8cm）の五領ヶ台期のものが、復元すると高さ30cmを越すと推定されている。全体の形状がわかる土偶は、平塚市王子ノ台遺跡の中空土偶は下半部を欠くが、高さ30cmを超す大形土偶である。また、秦野市指菩提横手遺跡中空土偶は、高さ25cmで左足の一部と左腕が欠けるが、土偶全体の姿がわかる。

「かながわの土偶」については、中期と後期での土偶の分布の相違や、出土する遺跡の傾向等いくつも検討課題が見えている。今後はこれまでの県内の土偶研究の成果を踏まえた基礎的なデータの構築と体系的な

検討が課題と思われる。(村松篤)

(註1) 鈴木保彦 1992「神奈川県出土の土偶」『国立歴史民俗博物館研究報告第37集』

(註2) 現在進行中の大規模遺跡の調査成果が明らかになると時代別の個体数は変動すると予想される。

(註3) ここにあげた土偶としての認定や時期は、文献に記載された情報を採用している。

(註4) 中山清隆編 2001『江見水蔭『地底探検記』の世界解説・研究編』雄山閣出版

(註5) 野中完一 1902『新編武蔵風土記稿に記された貝塚土偶』人類学雑誌17-192

(註6) 野口義麿編 1974『古代史発掘3 土偶芸術と信仰』

(註7) 東京国立博物館編 2018『縄文-1万年前の美の鼓動』

2. かながわの土偶出土遺跡一覧表

遺跡No	市町村（区）	遺跡名	土偶点数	時期	文献
1	横浜市南区	稲荷山貝塚	13	後期前半	67
2	横浜市青葉区	受地だいやま遺跡	7	中期後半	26
3	横浜市青葉区	松風台遺跡	4	中期後半	35
4	横浜市青葉区	上恩田遺跡群	3	後期前半	36
5	横浜市旭区	上白根町後谷北遺跡	1	中期	34
6	横浜市旭区	市の沢中崎遺跡	1	中期	18
7	横浜市磯子区	杉田貝塚	2	後期前半、晩期	16・6
8	横浜市神奈川区	三ツ沢貝塚	4	中期1、後期前半4	1・4・16
9	横浜市金沢区	青ヶ台貝塚	3	後期前半	48
10	横浜市港北区	榎戸第一遺跡	1	後期前半	13
11	横浜市港北区	市営菅田住宅地内遺跡	1	後期前半	32
12	横浜市港北区	篠原大原遺跡	2	後期	74
13	横浜市都筑区	二ノ丸遺跡	3	中期後半	72
14	横浜市都筑区	川和向原遺跡	2	後期前半	50
15	横浜市都筑区	原出口遺跡	2	後期前半	50
16	横浜市都筑区	華蔵台遺跡	16	後期前半	80
17	横浜市都筑区	三ノ丸遺跡	1	後期前半	21
18	横浜市都筑区	小丸遺跡	5	後期前半	60
19	横浜市都筑区	大熊仲町遺跡	2	中期後半	63
20	横浜市都筑区	加賀原遺跡	1	中期	86
21	横浜市都筑区	前高山遺跡	2	中期後半	66
22	横浜市都筑区	月出松遺跡	5	中期後半	77
23	横浜市都筑区	西ノ谷貝塚	5	後期前半	73
24	横浜市都筑区	折本貝塚	1	中期（前期後半？）	11
25	横浜市保土ヶ谷区	仏向貝塚	10	後期	17・87
26	横浜市栄区	公田ジョウロ塚遺跡	1	中期、顔面把手の可能性	16
27	横浜市栄区	上郷猿田遺跡	2	中期	20
28	横浜市中区	西ノ谷大谷遺跡	1	中期	29
29	横浜市中区	ヒソナ貝塚	1	後期	5
30	川崎市麻生区	岡上丸山遺跡	3	後期前半	22

縄文時代研究プロジェクトチーム

遺跡No	市町村（区）	遺跡名	土偶点数	時期	文献
31	川崎市麻生区	宮添遺跡	1	中期後半	30
32	相模原市緑区	川尻遺跡	22	中期10、晩期12	38・84・94
33	相模原市緑区	川尻中村遺跡	40	中期後半	68
34	相模原市緑区	原東遺跡	1	中期後半	64
35	相模原市緑区	三ヶ木遺跡	2	中期前半	41
36	相模原市緑区	相原八幡前遺跡	4	中期後半	69
37	相模原市緑区	橋本遺跡	35	中期前半1、中期後半34	27
38	相模原市緑区	県営三ヶ木団地内遺跡	1	後期後半	61
39	相模原市緑区	田名花ヶ谷戸遺跡	7	中期	42
40	相模原市緑区	はじめ沢下遺跡	1	中期	83
41	相模原市緑区	大日野原遺跡	1	中期	16
42	相模原市緑区	相模原No. 142遺跡	1	中期	43
43	相模原市中央区	山王平遺跡	8	中期後半	57
44	相模原市南区	上中丸遺跡	23	中期後半	46
45	相模原市南区	下中丸遺跡	4	中期前半	37
46	相模原市南区	当麻遺跡	4	中期前半～中期後半	14
47	相模原市南区	下原遺跡	3	中期前半	39
48	相模原市南区	新戸遺跡	5	中期後半	33
49	平塚市	原口遺跡	28	中期中1前23後1後期前半4	70
50	平塚市	王子ノ台遺跡	2	後期中～後半	51・62
51	平塚市	貝殻坂貝塚（万田貝殻坂）	4	後期	3・52
52	平塚市	内ムクリ B 遺跡	2	後期後半	7
53	平塚市	山王久保遺跡	1	中期	76
54	鎌倉市	関谷島ノ神西遺跡	1	後期前半	23
55	鎌倉市	東正院遺跡	7	後期前半	9・16
56	藤沢市	西富貝塚	3	後期前半～後半	8・90
57	藤沢市	遠藤貝塚	3	後期前半	44
58	藤沢市	向川名遺跡	2	後期	75
59	藤沢市	川名中丸遺跡	1	後期前半	8
60	藤沢市	稲荷台地遺跡	1	後期前半	53
61	藤沢市	石川山田 A 地点遺跡	1	後期	88
62	小田原市	久野北側下遺跡	1	後期前半	78
63	小田原市	天神山第Ⅲ地点	9	中期～後期前半	93
64	茅ヶ崎市	堤貝塚	1	後期	19
65	茅ヶ崎市	行谷遺跡	1	後期	36
66	茅ヶ崎市	久保山遺跡	1	後期	56
67	秦野市	天神台遺跡	4	中期前半3、後期 1	52・24
68	秦野市	菩提横手遺跡	1	後期前半	95
69	秦野市	堂坂遺跡	1	後期後半	89
70	秦野市	寺山金目遺跡	1	後期前半	89
71	秦野市	平沢同明遺跡	10	後期・晩期、土偶形容器1	89

「かながわの土偶」

遺跡No	市町村（区）	遺跡名	土偶点数	時期	文献
72	秦野市	太岳院遺跡	8	後期・晩期	24・86・91
73	秦野市	中里遺跡	1	後期前半	54
74	秦野市	曾屋吹上遺跡	3	後期	24・71
75	秦野市	三廻部東耕地遺跡	1	後期前半	99
76	秦野市	稲荷木遺跡	20	後期	97・98
77	厚木市	溝野日影坂上遺跡	1	中期後半	58
78	厚木市	恩名沖原遺跡	1	中期後半	65
79	厚木市	下依知大久根遺跡	2	中期後半	25
80	伊勢原市	坪ノ内・久門寺遺跡	1	後期	100
81	伊勢原市	下北原遺跡	1	中期前半	81
82	伊勢原市	西富岡・向畑遺跡	1	中期	92
83	伊勢原市	上粕屋・秋山遺跡	2	後期	99
84	伊勢原市	池端・駒形遺跡	1	後期	100
85	南足柄市	五反畑遺跡	6	後期	59
86	綾瀬市	上土棚南遺跡	13	後期前半	82
87	綾瀬市	宮久保遺跡	1	後期前半	28
88	寒川町	岡田遺跡	5	中期	45
89	大磯町	石神台遺跡	2	後期	12・40
90	大井町	金子台遺跡	4	後期後半	9
91	山北町	尾崎遺跡	1	中期前半	15
92	清川村	北原No. 9遺跡	1	後期前半	47
93	清川村	馬場No. 6遺跡	2	後期前半	49
94	清川村	表の屋敷No. 8遺跡	1	後期前半	55
		合 計	433		

【掲載報告書等引用文献】

1. 江見水蔭 1909 『地中の秘密』
2. 大野雲外 1917 「相模發見の土偶」『人類学雑誌』32-2
3. 八幡一郎他 1925 「神奈川県中郡旭村萬田貝殻坂の石器時代遺跡」『人類学雑誌』40-4
4. 松下胤信 1930 「横浜市青木町三ツ沢貝塚發見の土偶」史前学雑誌2-2
5. 松下胤信 1930 「横浜市中区根岸町ヒソナ貝塚出土の土偶と曲玉」史前学雑誌2-5
6. 杉原莊介他 1963 「神奈川県杉田・桂台遺跡の研究」考古学集刊第2巻第1号
7. 江坂輝弥他 1965 『平塚市上吉沢敷石遺構調査』平塚市文化財報告書第5集
8. 寺田兼方 1970 『藤沢市史』第1巻資料編 藤沢市教育委員会
9. 鈴木保彦 1972 『東正院遺跡調査報告 神奈川県鎌倉市関谷所在の縄文遺跡について』神奈川県教育委員会・東正院遺跡調査団
10. 赤星直忠 1974 『神奈川県金子台遺跡』横須賀考古学会
11. 野口義麿編 1974 『古代史発掘3 土偶芸術と信仰』講談社
12. 高山純他 1975 『大磯・石神台配石遺構発掘調査報告書』大磯町教育委員会
13. 川上久夫 1976 『港南台』神奈川県埋蔵文化財調査報告9
14. 山本暉久 1977 『当麻遺跡・上依知遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告12
15. 岡本孝之他 1977 『尾崎遺跡』神奈川県埋蔵文化財調査報告13

縄文時代研究プロジェクトチーム

16. 神奈川県 1979 『神奈川県史』資料編考古資料
17. 石井寛 1979 「横浜市保土ヶ谷区仏向貝塚の資料」『調査研究集録』第4冊港北ニュータウン埋蔵文化財調査団
18. 江藤昭他 1980 『市の沢中崎遺跡』横浜市市の沢中崎遺跡調査団
19. 茅ヶ崎市 1980 『茅ヶ崎市史3、考古・民俗編』
20. 江藤昭他 1983 『上郷猿田遺跡』横浜市上郷猿田遺跡調査団
21. 伊藤郭他 1985 『三の丸遺跡調査概報』横浜市文化財横浜市埋蔵文化財調査委員会
22. 竹石健二他 1985 『岡上丸山遺跡発掘調査報告書』川崎市教育委員会
23. 永井正憲 1985 『関谷島ノ神西遺跡発掘調査報告書』関谷島ノ神西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会
24. 杉山博久 1985 『秦野市史』別巻考古編
25. 江藤昭他 1985 『下依知大久根遺跡』下依知大久根遺跡発掘調査団
26. 重久淳一他 1986 『奈良地区遺跡群Ⅰ』発掘調査報告（第2分冊）
27. 大貫英明他 1986 『橋本遺跡 縄文時代編』相模原市本遺跡調査会
28. 長岡文紀他 1987 『宮久保遺跡Ⅰ』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告15
29. 滝沢亮 1987 「横浜市・西之谷大谷遺跡の調査」『第11回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』
30. 茅ヶ崎市 1987 写真集茅ヶ崎-きのうきょう-
31. 玉口時雄他 1988 「川崎市黒川地区遺跡群・宮添遺跡他の調査」『第13回神奈川県遺跡調査・研究発表会発表要旨』神奈川県考古学会
32. 橋本昌幸 1988 『市営菅田住宅地内遺跡発掘報告書』横浜市埋蔵文化財調査委員会
33. 大上周三他 1988 『新戸遺跡 県立新磯高校建設にともなう調査第1分冊』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告17
34. 橋本昌幸 1989 『上白根町後谷北遺跡発掘調査報告』横浜市埋蔵文化財調査委員会
35. 渡辺務 1990 『松風台遺跡』日本窯業史研究所
36. 近藤真佐夫 1990 『上恩田の遺跡』日本窯業史研究所
37. 三ツ橋正夫他 1992 『神奈川県相模原市下中丸遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
38. 御堂島正 1992 『川尻遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告23
39. 三ツ橋和正 1992 『下原遺跡』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
40. 杉山幾一 1992 『石神台』大磯町教育委員会
41. 御堂島正他 1993 『三ヶ木遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告26
42. 滝沢亮他 1993 『田名花ヶ谷戸遺跡（資料編）』相模原市田名塩田原地区埋蔵文化財調査団
43. 北川良明他 1993 『相模原No.142遺跡』相模原市教育委員会
44. 寺田兼方他 1993 『遠藤貝塚（西部217地点）』藤沢市西部開発事務局・藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
45. 小林義典他 1993 『岡田遺跡』県営岡田団地内遺跡発掘調査団
46. 三ツ橋正夫他 1994 『上中丸遺跡（上）』相模原市当麻・下溝遺跡群調査会
47. 市川正史他 1994 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅳ 北原（No.9）遺跡（2）北原（No.1）遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター21
48. 西田泰民他 1994 『青ヶ台貝塚発掘調査概報』佐野大和
49. 鈴木次郎他 1995 『宮ヶ瀬遺跡群Ⅴ』かながわ考古学財団調査報告4
50. 石井寛 1995 『川和向原遺跡 原出口遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告19（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会
51. 秋田かな子 1995 「王子ノ台遺跡・真田大原遺跡隣接地」東海大学校地内遺跡調査団報告5 東海大学校地内遺跡調査委員会東海大学校地内遺跡調査団
52. 磯前順一他 1996 『東京大学総合研究博物館所蔵縄文時代土偶・その他土製品カタログ』
53. 戸田哲也他 1996 『稲荷台地遺跡群発掘調査報告書』稲荷台地遺跡群発掘調査団
54. 村上吉正他 1997 『中里遺跡（No.31） 西大竹上原遺跡（No.32） 第一東海自動車道厚木・大井松田間改築事業に伴う調査報告4-秦野市内-』かながわ考古学財団調査報告30
55. 近野正幸他 1997 『宮ヶ瀬遺跡群ⅩⅢ』かながわ考古学財団調査報告19

「かながわの土偶」

56. 茅ヶ崎市	1997	「久保山遺跡」第8回茅ヶ崎市遺跡調査発表会要旨 茅ヶ崎市文化振興財団
57. 戸田哲也他	1998	『山王平遺跡縄文時代編』淵野辺山王平遺跡発掘調査団
58. 迫和幸他	1998	『神奈川県厚木市 溝野日影坂上遺跡発掘調査報告書』溝野日影坂上遺跡発掘調査団
59. 安藤文一	1998	『五反畑遺跡発掘調査概報』五反畑遺跡発掘調査団
60. 石井寛	1999	『小丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25 (財)横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター・横浜市教育委員会
61. 北平朗久他	1999	『県営三ヶ木団地内遺跡』県営三ヶ木団地内遺跡発掘調査団
62. 平塚市	1999	『平塚市史11上別編考古』
63. 坂上克弘	2000	『大熊仲町遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告26
64. 天野賢一他	2000	『原東遺跡』かながわ考古学財団調査報告 79
65. 迫和幸他	2000	『神奈川県厚木市恩名沖原遺跡発掘調査報告書』恩名沖原遺跡発掘調査報告
66. 石井寛他	2001	『前高山遺跡・前高山北遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告29 横浜市港北 ニュータウン埋蔵文化財調査団
67. 松田光太郎他	2002	『稲荷山貝塚 根岸米軍(11)法面整備工事に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報告 131
68. 天野賢一他	2002	『川尻中村遺跡』かながわ考古学財団調査報告 133
69. 香村紘一	2002	『相原八幡前遺跡』相原地区遺跡調査団査報告書5 相模原市
70. 長岡文紀	2002	『原口遺跡Ⅲ 縄文時代 農業総合研究所建設に伴う発掘調査』かながわ考古学財団調査報 告 134
71. 今泉克己他	2002	『曾屋吹上遺跡200102地点』曾屋吹上遺跡発掘調査団
72. 小宮恒雄他	2003	『二ノ丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告34
73. 坂本彰他	2003	『西ノ谷貝塚』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33 (財)横浜市ふるさと歴史財 団
74. 天野賢一他	2004	『篠原大原遺跡』かながわ考古学財団調査報告 175
75. 三ツ橋勝	2004	『向川名遺跡(No.25)発掘調査報告書』藤沢市No25遺跡発掘調査団
76. 大野悟	2004	『山王久保遺跡一第11地点一』平塚市教育委員会 平塚市埋蔵文化財シリーズ39
77. 坂上克弘他	2005	『月出松遺跡・月出松南遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告37 横浜市港北 ニュータウン埋蔵文化財調査団
78. 粕谷隆他	2005	『久野北側下遺跡第Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ地点 久野北久保下第Ⅰ地点』小田原市第123集
79. 戸田哲也他	2007	『万田貝殻坂貝塚(万田遺跡第9地点)』平塚市・玉川文化財研究所
80. 石井寛	2008	『華蔵台遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告41 (財)横浜市ふるさと歴史財 団
81. 大塚健一他	2008	『下北原遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告 222
82. 矢島罔雄他	2008	『上土棚南遺跡第5次～第7次調査の記録』綾瀬市埋蔵文化財調査報告6
83. 井辺一徳他	2009	『はじめ沢下遺跡』かながわ考古学財団調査報告 236
84. 藤沢市	2009	『大地に刻まれた藤沢の歴史Ⅱ』藤沢市教育委員会
85. 天野賢一他	2010	『川尻遺跡Ⅲ』かながわ考古学財団調査報告262
86. 小森明美他	2011	『太岳院遺跡2006-02地点』秦野市教育委員会
87. 石井寛他	2012	『加賀原遺跡・佐江戸8遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告45 横浜市港北 ニュータウン埋蔵文化財調査団
88. 阿部友寿他	2012	『仏向貝塚・仏向遺跡・仏向町遺跡』かながわ考古学財団調査報告 133
89. 小森明美他	2012	『神奈川県秦野市堂坂遺跡・寺山遺跡・寺山金目遺跡・平沢同明遺跡』秦野市教育委員会
90. 染谷七重	2012	『西富貝塚(No.46遺跡)発掘調査報告書一第4次調査一』湘南考古学研究所
91. 坪田弘子他	2013	『大岳院遺跡・尾尻尾崎遺跡・水神遺跡・今泉西堀遺跡』
92. かながわ考古学財団	2013	『考古学財団年報』20公益財団法人かながわ考古学財団
93. 戸田哲也他	2016	『天神山遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所
94. 河本雅人	2017	『国指定史跡川尻石器時代遺跡総括報告書』相模原市教育委員会

縄文時代研究プロジェクトチーム

95. かながわ考古学財団 2018 『考古学財団発掘帖』No. 28 公益財団法人かながわ考古学財団
96. かながわ考古学財団 2019 『考古学財団年報』25 公益財団法人かながわ考古学財団
97. かながわ考古学財団 2018 「平成30年度特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2018」展示遺物目録
98. かながわ考古学財団 2019 「令和元年度特別展「遺跡・遺物が語る！かながわ・秦野の歴史2019」展示遺物目録
99. かながわ考古学財団 2020 『考古学財団年報』26 公益財団法人かながわ考古学財団
100. 伊勢原市教育総務課 「伊勢原文化財サイト 縄文時代」

〔参考文献〕

- 鈴木保彦 1995 『土偶シンポジウム3 栃木大会 関東地方後期の土偶』
縄文時代研究プロジェクトチーム2000「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅴ」かながわ考古学財団研究紀要5
- 高橋毅 2004 「筒形土偶の背景に向けて」『考古論叢 神奈河第12集』
縄文時代研究プロジェクトチーム2005「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅶ」かながわ考古学財団研究紀要
- 千葉毅 2016「神奈川の土偶」第13回土偶研究会要旨